

令和5年度 第1回吹田市環境審議会 議事概要

会議概要

日時	令和5年(2023年)8月31日(木)14:00~16:00	
場所	全員協議会室	
出席者	委員	三輪委員、良永委員、尾崎委員、塚田委員、鍋島委員、松井委員、五十川委員、乾委員、井上委員、中西委員、林委員、山根委員、高岡委員、岩崎委員、芳賀委員、橋本委員、三嶋委員、三田委員、柚山委員
	事務局	辰谷副市長、道澤環境部長、楠本環境部次長兼環境政策室長 (環境政策室)小山参事、丸谷参事、金尻参事、水谷主査、圓谷主査、冨田主査、原口主査、辻本主査、伊藤係員 (環境保全指導課)西川課長、石川指導長、加藤参事、西尾主査、坂東主査 (事業課)信川課長 (資源循環エネルギーセンター)白田次長 (破碎選別工場)福山工場長
議事	<p>1 開会</p> <p>2 審議</p> <p>(1)環境目標値の変更について【資料1】</p> <p>(2)「吹田市第3次環境基本計画」の進行管理について【資料2, 3】</p> <p>4 閉会</p>	
資料	<p>1 目標値を達成した指標の見直しについて</p> <p>2 令和4年度 吹田市第3次環境基本計画の進行状況に係る環境審議会評価(案)</p> <p>3 令和4年度 吹田市第3次環境基本計画の進捗状況に係る環境審議会評価(案)に対する意見一覧</p> <p>【参考資料】</p> <p>1 令和4年度吹田市第3次環境基本計画指標実績グラフ</p> <p>2 令和4年度吹田市第3次環境基本計画環境施策の実績一覧 令和5年3月31日現在</p>	

## 議事

### 1 開会

#### 事務局

- ・吹田市環境市議会を開催する。委員 23 名の内、19 名が出席しているため、吹田市環境審議会規則第 5 条第 2 項に定める会議開催要件を満たしている。
- ・副市長挨拶ならびに各委員、事務局を紹介。
- ・「吹田市環境審議会の会議の傍聴に関する事務取扱要領」にもとづき、傍聴者 4 名入室。

### 2 審議

#### (1) 環境目標値の変更について【資料 1】

#### 会長

「吹田市第 3 次環境基本計画」の進行管理について審議する。同計画の進行管理については、前年度の施策の実績を取りまとめ、環境審議会での審議や評価を受けて、次年度以降の施策へ反映するという PDCA サイクルを活用している。この審議会は PDCA の「Check」の場となる。資料 2 の「環境審議会評価（案）」の内容について審議をお願いする。

#### 事務局

資料に基づき説明。

新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナへの侵攻など様々な国際トレンドの動向に対応し、環境基本計画の指標を追加・修正してはどうかという意見を多数いただいた。その中でも環境基本計画への影響が大きい新型コロナウイルス感染症について、その影響を評価案に書き込んでいる。その他の事象については、環境基本計画の目標は気候変動や生物多様性、資源循環への対応に向けたものであり、指標の面においては、現時点で大きく影響を受けるものではないと考えている。

計画期間中に指標を変えることは困難だが、指標の達成に向けて実施すべき取組については適宜検討していきたい。また、今後環境基本計画に大きく影響を及ぼす事案が生じた場合には、評価に書き込んでいく必要があると考えている。

#### 会長

これまでの資料ならびに事務局からの説明について意見をいただきたい。

#### A 委員

マイバッグ持参率の目標値設定時に池田市の 86% を根拠としているとあるが、池田市はどのような施策をしてこの数値を目標にしたのか。また、吹田市との施策の違いは何か。

#### 事務局

吹田市と池田市で施策に大きな違いはない。吹田市の特徴としてワンルームマンションが多い地域があり、マイバッグへの関心が低い世帯も存在することから、100%に到達していない現状である。一般廃棄物処理基本計画策定時、池田市をさらに1%上回る87に設定した。

#### A委員

池田市の86%を1%でも超えると北摂1位となるのは確かだが、限り無く100%に近い目標の設置が望ましいのではないかと。

#### 事務局

87%の数値は令和10年度の目標であり、もっと上を目指していく考えである。

#### 副会長

マイバッグ持参率について、昨年目標を変えるべきと指摘したが、87%は根拠が薄弱である。吹田固有の事情を考慮するべきではないかと。

#### 事務局

廃棄物減量等推進審議会を経て、第3次一般廃棄物処理基本計画に記載されているので、ないがしろにはできない。取組としてはほぼ横並びだが、北摂7市3町でマイバッグ持参率を上げていきたい。その中でトップの値を行くべきとして87%としている。ご理解いただきたい。

#### 会長

さらに超えていく取組をしてほしい。

### (2)「吹田市第3次環境基本計画」の進行管理について【資料2, 3】

#### 事務局

資料に基づき説明。

#### A委員

資料2の4ページで、生物多様性保全イベント参加者数の評価点が1となっているが、下段の評価の内容では改善しているように読める。現状のイベントの参加者は目標値の半分ほどで認知度も低いので、評価の文言にそういった課題を追記したほうが良いのではないかと。

#### 事務局

コロナで最も低迷していた頃よりは増加したが目標値には届いていない。この点を含めた記述を追記する。

#### B委員

生物多様性の保全を重要と思う市民の割合が低下している。コロナによってイベントが開催できなかったことが影響しているというのが市の認識か。

#### 事務局

確かにイベントの数は少なくなったが、このことが割合の低下に直結しているか確信はない。また、環境の中で生物多様性への理解は難しいと意見をいただいている。生物多様性の保全を重要と思う市民の割合を市民意識調査で正しく把握できているかはテクニカルな問題で研究を深めたい。

#### C委員

資料3の別紙で大阪市と京都市で比較しているが、熱帯夜日数は人口規模に比例するとされている。可能なら吹田市と同規模の市のデータを加えれば、もう少し比較ができるのではないか。

#### 事務局

気象庁で公表されているデータを元に資料を作っているので大阪市や京都市といったメジャーな都市しかない。吹田市のデータは北消防署のものなので、同規模の市で正確なデータが公表されているか研究したい。

#### D委員

生物多様性について、生物多様性国家戦略では、市民と事業者の2本立てで認知のモニタリングをしている。本計画でも市民の認知度を上げる項目が記載されているが、民間企業の取組を評価する項目があると良いのではないか。

#### 事務局

生物多様性について、事業者の活動がどの程度影響を及ぼすか認識がなかった。知見を深める必要がある。

#### D委員

生物多様性について、アサヒグループなどがレポートを出したほか、他の企業も続々と出している。吹田市もそういったレポートを把握しておけば良い。

#### 会長

生物多様性の問題は、コンクリートに囲まれた吹田市で認識するのは難しい。市民生活に生物多様性がどのように関係するか紐解いたときに、市民の意識も高まるのではないか。

#### E 委員

資料 2 の 6 ページの達成指標で吹田市役所の事務事業に伴う年間温室効果ガス排出量が、増えているのはコロナの換気対策が要因とあるが、ほかの指標のようにエネルギーの消費量として増えているのか、CO<sub>2</sub> に換算するとき排出係数が関係しているのか、再エネの導入割合が増えた効果を含んでいるのか、数字上分からない。

#### 事務局

エネルギー消費量(GJ)としても昨年度の実績としては、一昨年度の実績より増えている。CO<sub>2</sub> 換算時には排出係数も影響している。そういったこともあり SMAP 推進本部会議ではギガジュールで評価している。

#### F 委員

資料 2 の 8 ページの下水処理水の高度処理普及率とは、大阪府が処理した高度処理水をどのように吹田で活用しているかという理解でよいか。それとも吹田の各下水処理場で処理した高度処理水を市民に提供したり事業に活用した割合か。

#### 事務局

下水処理水の高度処理普及率とは、下水処理水場が高度処理を行っている割合である。吹田の場合は処理水を各地域に送っているので、数値の減少は地域の人口比率が変化したことによるものである。昨年下水道部に聴取したところ、100%を目指さなければならないものではないとのことである。

#### 会長

今後 100%に届くことはないという認識でよいか。

#### 事務局

目標として 100%と掲げているなかで、下水道部とも協議し次回までに整理する。

#### 副会長

資料 2 の 4 ページと 7 ページに、食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数があるが、令和 10 年度の目標値 520 に対し、現状は 160 ほどであり目標の 3 割程度である。この数値

の定義を教示願う。

事務局

啓発活動の累計実施回数である。令和 10 年度に累積 520 回を目指している。

副会長

単年度にはできないか。

事務局

指標を見直すかどうかは次回以降この場で議論したい。

会長

のべ回数で書いてしまうと昔は頑張っていたのに今は頑張っていないように見えても仕方ない。年々そのような活動が増えてきているというような書き方に変更するべきではないか。

A 委員

啓発活動の年間実施回数の目標が 520 回であると思っていた。また、市民が自発的に行った活動も含まれると思っていた。地域の祭など市が行っていないイベントをカウントすることも可能であるため、どこが主催するかを含め考えてほしい。

事務局

目標値の見直しを含め、ご指摘の件も検討させていただく。

B 委員

資料 2 の 9 ページで緑被率の目標値 30% に対し、実績値の更新がなく、近年は一人当たりの公園の面積も少し減っている。公園に代表される緑を増やしていくべきではないか。

事務局

緑被率に関しては、平成 25 年度以降調査が実施されていない。また、実施したとしても目標に近づいていることはないとの認識である。この指標は土木部が策定しているみどりの基本計画から引用しているが、今後この指標をどうするかは、土木部とも協議して考えていきたい。

B 委員

緑被率を上げることでヒートアイランドの対策にも繋がる。市有地をすぐに売却するの

ではなく、市民の憩いの場となる公園等の増設に向けて土木部と環境部が協力し、本気で取り組むべきと要望しておく。

#### F 委員

公園に対する市民のニーズが多様化し、緑だけを重視しているわけではなく、カフェなど多用途で、Park-PFI 等の手法により民間活力の導入も進んでいる。また、緑はただ増えれば良いというわけではなく自然災害時に倒木などのリスクもあり管理が重要である。緑被率を上げるという指標では課題が多い。現状を把握し指標を見直すことも必要では。

#### 事務局

人口が増えることにより緑が減ることには危機感を持っており、指標に関しては精査する必要がある。市民のニーズが多様化している中でも限られた緑は守るべきで、環境部、土木部など関連部局とも協議し、次までに議論を重ねておく。

#### 副市長

緑被率の計算手法を詳しく把握していないが、公園等＝緑地として考えた場合、30%に増やすのは困難である。また、市の南部のみどりの少なさは課題として認識しており、これからも議論を深めていきたい。

#### 会長

みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じるという市民の割合は増えているが、緑の量は地域によって偏りがあるため、66.9%という数字も地域によって変わる可能性がある。これだけで評価できないのでは。

#### G 委員

資料 2 の 9 ページに市民 1 人当たりに対する都市公園面積の指標を策定した際は、人口減少を前提として作っていると感じたが、吹田市は 4 年連続で人口が増加しているため、前提が変わっているのであればこのままではいかなものか。

#### 事務局

どのような人口予測に基づき目標の数値を決めたかについては確認しておく。公園の面積が大きく増えない以上、人口が増えるほど一人当たりの面積は小さくなる。

#### H 委員

吹田市はごみの分別の種類が少ないのではないかと。特にペットボトルを可燃ごみで捨てるのは違和感を覚える。豊中市はペットボトルの分別があり、すぐ去る学生は面倒で可燃

ごみで捨ててしまっていたため質問させていただいた。

#### 事務局

ペットボトルの個別回収は行っていないが、拠点回収という方法で収集している。全国的にみて、現状のゴミの分別 12 種類は多いわけではないが、今後、どのような分別方法にすべきなのか、どのように周知するかは課題として認識している。

#### I 委員

資料 2 の 6 ページの市域の年間温室効果ガス排出量について、令和 10 年度に 1,092 千トン-CO<sub>2</sub> とあるが、吹田市は世界の中では微々たるものだが、吹田市が目標を達成することで、日本全体でどれだけ気温に影響が出るかなどを示せば市民の方にも伝わるのではないかと。行政としての目標、結果に対する達成度ではなく、市民目線での結果が分かるほうがよい。

#### 事務局

地球温暖化の問題が、吹田市から排出される CO<sub>2</sub> 排出量が、どの程度温度上昇幅に影響するかを観測することは難しいが、市民に分かりやすく活動の結果を示せるよう、啓発方法などを検討する。

#### J 委員

資料 2 の 6 ページで市域の年間エネルギー消費量は約 4 割削減し、市域の年間温室効果ガス排出量は半減するという目標になっているが、具体的な施策はあるのか。

#### 事務局

CO<sub>2</sub> 排出量の計算には、エネルギー単位数あたりどの位の CO<sub>2</sub> を排出するかという排出係数をかけている。今後、排出係数が低下していくこと見込んでいるため、エネルギーの消費が減った時、CO<sub>2</sub> 排出量が半減となることが可能として目標を設定した。

#### J 委員

CO<sub>2</sub> 排出係数の低いエネルギーを使うことを推進していくということではないか。

#### 事務局

そのとおり。排出係数が低いエネルギーだと原子力も入るため、市としては再生可能エネルギーを使うことを念頭においている。

#### K 委員

ゴミの分別に関する吹田市の回答を補足したい。12種分別は荒いやり方ではあるが、破碎選別工場でさらに細分化している。分類を徹底し過ぎると収集運搬の段階でコストが高くなるため、現在のやり方を採用している。

#### L委員

資料2の10ページの自転車通行空間の整備延長について、自転車通行空間は増えてきているが狭くて危険なところが多いので整備をしてほしい。目標値を修正したとあるが、数値を下げたのか。

#### 事務局

土木部が自転車利用環境整備計画を令和4年3月に中間見直しを行い、その中で目標値が見直され40kmから25kmになったのに伴い、本計画の目標値も修正した。

#### L委員

基準年度が1.8kmで目標値が25kmと目標値を達成するのは厳しいように思える。環境面で進められることはないか。

#### 事務局

道路については土木部の所管であるため直接的な回答はいたしかねるが、規模の大きな開発事業であれば環境アセスメントの対象となり、その中では、自転車や歩行者の安全を確保するよう働きかけている。

#### 副市長

自転車通行空間の整備は、警察との協議など様々な厳しい条件があるが、目標に向けて鋭意努力する。

#### M委員

4点コメントする。

①資料2の6ページの資料内の単位を見直してはどうか。例えば、PJ/年、GJ/人など示しているものがはっきり分かるように見直してみてもどうか。

②脱炭素の気候に対する影響の効果で、SBT (Science Based Targets, パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標) に対して、吹田市がどこまで頑張れたか、比較対象を温室効果ガス削減量と温度上昇と合わせる形で示すと伝わるのではないか。

③緑地を守るというのは、人と生物にとって質の高い自然共生空間であるかが本質であるため、緑地の量で判断する必要はない。吹田市は市街地であるため、例えば生き物の生

息空間を用意した住宅の数など、市街地ならではの自然共生を評価できる指標を積極的に提案してはどうか。緑地の数値にこだわることは生物多様性的には本質的ではない。

④環境省では第6次環境基本計画を令和6年の年初に閣議決定する予定である。環境問題と正義、公正の問題を同時に解決しなければならないのが国際トレンドである。市としても第4次の計画に向かって、金銭的余裕がない人に太陽光パネルの補助金やエアコンの補助金など、公正性を取り入れた政策などの勉強会をしてみてもどうか。

#### 事務局

他市の環境基本計画等を参考にし、一般的に使われている単位を用いて適切に表記する。質の高い緑又は生物多様性に配慮した開発・まちづくりについては我々も研究を進めていきたいので、今後も相談にのっていただきたい。指標については、国の指標とリンクし、市民に伝わるような指標を本計画の改訂に向けて検討したいので、学識・民間事業者からご提案いただければ幸いである。

#### H委員

学生は環境問題に無関心であり、唯一環境問題に触れるのがごみの分別であるため、あまり分別していないイメージがあると、吹田市は環境に注力していないイメージを持つ。ごみの問題から、学生などの市民に良い見方をされるような取組をすべきである。

#### 副会長

ごみだけではなく生物多様性や気候変動の問題も、子どもだけでなく学生を含む大人にも教育が大事である。市内に5大学あり、専門家も多くいる。個人だけではなく、それぞれの大学でも環境の対策をしている。吹田の教育をどうしていくか話し合う機会があるとよい。

#### 会長

本日いただいたご意見は事務局と協議のうえ成案を出したい。よろしいか。

#### 一同

異議なし。

#### 4 閉会

#### 会長

予定の議事が終わったので本日の環境審議会を終了する。